

稲城野草散策の会

野草スケッチ ノアザミ（キク科）



1997/05/27 稲城市浜坂 絵と文 Ta

「口をもて霧ふくよりもこまかなる雨にあざみの花はぬれけり」 長塚 節

アザミは秋の花というイメージがあるが、ノアザミは梅雨どきに咲く。
霧雨にぬれてたたずんでいるノアザミは絵になる情景だ。
田んぼの畦道や雑木林の縁に咲いているのをよく見かける。

多摩丘陵に咲くアザミの仲間は、ノアザミ、タイアザミ、ノハラアザミが代表格

会報第18号 2006年6月18日発行 発行責任者 尼子 房夫

である。

高尾山などへ近づけば、違う種類も出てくるが、稲城近辺では上記の3種類を覚えておけば、ことが足りる。

だが、これだけでは、よそへ行ったときにはお手上げになってしまう。

全国的に見るとアザミ属にはたくさんの種類がある。

手持ちの「フィールド版日本の野生植物・草本」には、51種+ α が記載されている。

+ α は、亜種、変種で、これも20ほどある。

しかも、特定の地域に限定された狭い分布のものが多く、見たこともないものが大部分を占めている。

とても覚えきれものではないし、覚える気も起きないほどだ。

アザミに限らず、キク科の花は、たくさんの花が集まったものだという。

通常、われわれが1個の花と呼んでいるものは、数十~数百の小花(しょうか)の集合なのである。

ヒマワリ(同じくキク科)は、1個の小花から1個のタネができる。タネの数だけ小花があったことになる。

アザミの場合も同じように1個の小花から1個のタネ(正確には果実)ができる。

アザミには面白い性質がある。

咲き始めの花の先端を指で軽くなでると、触られた小花の先端から、もこもこと白い花粉が出てくる。

小花は筒のような形をしていて、筒の中から花粉が押し出されてくるのだ。

昆虫の来訪に合わせて、花粉を出す仕組みである。♪ムダがな〜い♪

このことはほとんどの図鑑に書いてることだが、最初に言い出したのは、田中肇さんという方である。

植物学者の間ではキク科の花粉押し出しメカニズムについてはよく知られていて、論文には記述があったそうである。

しかし、学者が引き合いに出した花は、一般には馴染みのない花だったため、アマチュアには遠い世界の出来事のようにしか感じられなかった。

田中肇さんが、ノアザミの同じ現象について発表したことが契機となって、一気にポピュラーになった。

現在では、学者もアザミを例にとって説明するという話である。

田中さんは貴金属細工（飾り職人）を生業とする傍ら、花と昆虫の関係をライフワークとして研究されてきた方だ。

昆虫から見た花の模様・・・昆虫は紫外線を見ることができるため、人間とは違う色、模様に見える・・・について、紫外線フィルムを使って証明して見せた。

花の生態についてあげられた数々の業績は、学者も一目置くところで、論文にも多数引用されている。

田中さんの研究方法はユニークだ。

一日、いや、何日でも花の前に座って、どういう昆虫が訪れてどういう振る舞いをするのか、じっと観察するそうである。

「花と昆虫（保育社・カラー自然ガイド）」「花と昆虫が作る自然（保育社・エコロジーガイド）」など、の著書も多数ものしておられる。

われわれが観察会で、知ったかぶりして説明する花の生態は、元を辿ると、田中さんの本からの受け売りだったりすることもしばしばだ。

田中さんは、じつは、パソコン通信の植物観察仲間である。

先日、「田んぼ雑草観察入門」を私が主催したときにも参加いただいた。

長靴を履き、飄々としたいでたちでの登場だった。

アザミについての裏話（？）もそのときにうかがったことであった。

〔観察記録〕 5月21日 芦ヶ久保

今回の芦ヶ久保は天気も良かったし、たくさんの植物が見られたし、とてもよい観察会だったように思います。みなさま、お疲れ様でした。

めりべさん、記録、ありがとうございます。（T a）

広澤さんが説明して名札をつけた植物を列挙します。（めりべ・山口美智子）

1. ヌルデ、2. カラムシ、3. コボタンツル、4. メヤブマオ、5. トウダイグサ、6. テリハノイバラ、7. キリ、8. キハギ、9. マルバウツギ、10. ダンコウバイ、11. チョウジザクラ、12. クサボタン、13. オケラ、14. ヤブデマリ、15. キツタ、16. クマノミズキ、17. ハンショウツル、18. ムラサキシキブ、19. エゴノキ、20. ガマズミ、21. コゴメウツギ、22. タチシオデ、23. タチドコロ、24. アワブキ、25. ミミガタテンナンショウ、26. リョウブ、27. ツクバネウツギ、28. カシワバハグマ、29. タ

チシオデ花、30. ミヤマナルコユリ、31. タガネソウ、32. コバノガマズミ、33. キヌタソウ、34. キクバドコロ、35. ツクバネ、36. ツノハシバミ、37. サルナシ、38. ウリカエデ、39. ツクバネ雄花、40. クマヤナギ、41. ヤマテリハノイバラ、42. オオバマンサク、43. カニツリグサ、44. チダケサシ、45. ヤワラスゲ、46. オヘビイチゴ、47. ナツトウダイ、48. キバナアキギリ、49. ヤマコウバシ、50. ナンテンハギ、51. キウイ、52. ツルウメモドキの仲間、53. ノイバラ、54. ロウバイ (実)、55. ヤマウグイスカグラ、56. クサギ、57. ベニシタン、58. ジュウニヒトエ、59. ホタルカズラ、60. サンショウバラ、61. キブシ、62. マルバアオダモ、63. ヤマボウシ、64. ミヤマガマズミ、65. ヤマツツジ、66. ツクバネウツギ、67. オトコヨウソメ、68. ナガバノコウヤボウキ、69. ウラジロノキ、70. アズキナシ、71. ナツハゼ、72. ネジキ、73. アオハダ、74. マルバアオダモ、75. ズミ、76. サワシバ、77. リュウキュウマメガキ、78. フサザクラ、79. イヌザンショウ、80. クマイチゴ、81. アサダ、82. ヤマトアオダモ、83. ヒメハギ、84. ツリバナ、85. ムラサキニガナ、86. ギンリョウソウ、87. ニガキ、88. ウツギ (ウノハナ)、89. メグスリノキ、90. キヌタソウ、91. ミツバウツギ、92. タムラソウ、93. サルマメ

これ以外に観察したもので、資料に記載がないものは、

クマシデ、アカシデ、イヌシデ、ミスナラ、シロダモ、コウヤミズキ、イヌザクラ、アカメガシワ、イタヤカエデ、オオモミジ、ヤマモミジ、コハウチワカエデ、ベニバナトチノキ、ナツグミ、ヒメウコギ、ベニウツギ、サルトリイバラ、ノミノツツリ、オヤブヅラミ、タチイヌノフグリ、センボンヤリ、コウゾリナ、ノゲシ、チゴユリ、キンラン、ギンラン

名札付けの再開にあたって：

さて、今回植物名の名札付けを再開するにあたり、ご参加の皆様にご協力頂きましたこと、深く感謝いたします。皆様のご要望が強いようであれば、今後も継続したく思いますので、次回以降もよろしく願いいたします。

(世話役だけでは、継続は難しいので・・・)

名札に植物名を記入して下さったぽんこさん、美声で(^ ^)植物名の確認をして下さったウグイス嬢さん、記録を取って下さった山口さん、本当にありがとうございました。

また、補足説明をして頂いた皆さん、名札の回収にご協力頂いた皆さん、本当に助かりました。暫く、このやり方で行きたいと思います。(めりべ)

マンサク科の植物をコウヤミズキと判定した理由：

1. 葉の形、大きさ、その他の特徴からして、「なぞの樹」は、トサミズキかコウヤミズキと思われる
2. トサミズキには枝、葉柄などに星状毛がある
3. 私の撮った拡大写真には星状毛が見当たらない
4. よって、該当樹木はトサミズキではなくコウヤミズキ

コウヤミズキの分布は「中部地方以西、中国、四国」なので分布からみるとおかしいですが、あのあたりには植生と思われる樹木もありましたので、栽培からの逸出ではないのか、と思っています。

なお、「埼玉県植物誌」も当たってみました。コウヤミズキが埼玉県にあるという記述はありませんでした。(T a)

〔観察記録〕 5月27日 府中多摩川

雨の予報にも負けず集まったのは、16+1人。小雨が降ったり止んだりの天気でしたが、いろいろ観察出来て楽しい一日でした。

コースは、中河原の駅から住宅地の中を通過して、中河原公園の樹木を観察、そこから多摩川緑地へ。府中多摩川かぜのみちを歩いて、いこいの森で昼食。ここで一旦解散。残った方で、ニヶ村緑道を抜けて、府中街道へ。競馬場の側を通り、ボダイジュと云う喫茶店の前のボダイジュの花を見て、隣の妙光院へ。ここには別の種のボダイジュがあり、セッコクの花が咲いていました。ここから大国魂神社の裏手を抜けて府中の町に出て、本日の観察会を終わりましたが、公園や緑道にはいろいろな樹木が植えられていて、金宝樹の花がきれいに咲いていたり、仲々面白いコースでした。

記憶に残ったものは、いろいろイネ科の植物を観察したほか、イボタの花が満開、オニグルミの実、ツルマンネングサ、セイヨウオトギリ、カワラサイコの黄色の花。お目当てのレンリソウの花が咲いていました。

次回は、6月18日ありがた山です。またお会いしましょう。

(*)ニヶ村緑道はニヶ村用水(旧常久・押立両村の灌漑用水に付けられた名前)から来たものと思われます。

(FAM)

朝から小雨の降りしきる中、河原の散策を楽しみました。目的のレンリソウは濃いピンク色の花で、見目麗しく咲いていました。花はカワラサイコ、カナビキソ

ウ、セイヨウオトギリ（コゴメバオトギリ）、ツルマンネングサ、ノチシャ、コメツブツメクサ、キツネアザミ、コウゾリナ、ノゲシ、ブタナ、ヒメジョオン、センダングサ、ユウゲショウ、ナガミヒナゲシ、ムシトリナデシコ、ヘラオオバコ、ツボミオオバコ、ヒメスイバ、カラスノエンドウ、ニワゼキショウ、ウラジロチチコグサ、ナワシロイチゴ、ノイバラ、ウツギ（ウノハナ）、イボタノキ、クスノキ。

他にマメグンバイナズナ、メドハギ、ガガイモ、ノビル、オオブタクサ、クワイモ、ハナウド、カラムシ、イタドリ。

ネズミムギとホソムギ、カモシグサ、チガヤ、カモガヤ、ハルガヤ、イヌドクサ、ウシノケグサ。

河原へ行く途中で、ムク・ヒイラギ・クスノキ・イボタノキ・センダンが混在し、ツルニチニチソウまで絡んでいる素晴らしい垣根がありました。

途中ではケヤキ、エノキ、モッコク、ヒメシャラ、ナツツバキ、ハナミズキ、マテバシイ、スタジイ、トウカエデ、ビワ、シナヒイラギ、キンモクセイ、ヒュウガミズキ、サンゴジュ、キョウチクトウ、クコ、ヤマモモには沢山の実。ナツメが印象的でした。

河原にはニセアカシア、ツルウメモドキ、オニグルミは実をつけていました。府中の森の隣“いこいの森”で昼食。解散後、ニヶ村緑道から府中駅まで観察して歩きました。（ぽんこ）

セイヨウオトギリとコゴメバオトギリ：

多摩川の河原で「コゴメバオトギリ」の花が咲いていました。この名称ですが、最近では「セイヨウオトギリ」に統一されているそうです。原産地ではセイヨウオトギリを母種として、これの葉の小さいものを var. *angustifolium* DC.として認めていたのですが、その葉の大きさは連続しているという最新の発表があり、小さい葉のものを変種として扱わなくなったのです。

セイヨウオトギリ *Hypericum perforatum* L.の一本立てになっています。（FAM）

オトギリソウの仲間の葉には、黒点や明点がありますが、セイヨウオトギリは、葉に明点、黒点があって、しかも花弁の縁に沿って黒点があるのですね。今回観察して、確認出来ました。

〔お知らせ〕

●稲城野草散策の会では、会のバッジをお渡ししています。昨年以來5回以上この会に参加された方に差し上げていますので、「5回参加した」という方は世話役の尼子までお申し出下さい。

〔行事予定〕 2006/6/18 (日) ありがた山

項目	説明
集合	am10時、京王相模原線・京王よみうりランド駅 改札口付近 ※ 会旗目標 よみうりランド駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で3駅目 小田急、多摩モノレールの場合は、多摩センター駅で京王線に乗換 えて4駅目 よみうりランド駅に急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	京王相模原線・稲田堤駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	ありがた山石仏群についてはHP野草スケッチ「ジロボウエンゴサク」 のエッセーにも説明があります オニノヤガラ、ギンリョウソウなど、梅雨時に出る腐生植物が見ら れます。冬虫夏草の一種も出てきそうです
地図	
コース	京王よみうりランド駅→妙覚寺→ありがた山石仏群→雑木林散策→ 妙法寺(昼食)→よみうりランド→小沢城址→京王稲田堤駅(解散) 行程5~6km、多少のアップダウンがあります(標高差100m 以下) コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2006/7/30 (日) 清水谷戸

項目	説明
集合	京王相模原線・稲城駅 改札口付近 am10時 ※会旗目標 稲城駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で4駅目 小田急、多摩モノレールの場合は、多摩センター駅で京王線に乗換えて3駅目 急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	稲城市坂浜地区、清水谷戸 (下の地図を参照ください) 京王相模原線・稲城駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	学園広場は小規模ながら手入れのよい雑木林で、林床にはヤマユリなどいまでは貴重になってしまった植物群が見られます 清水谷戸には湧き水を利用した水田があり、水辺の植物が豊富です
地図	
コース	稲城駅→百村→駒沢学園・学園広場→清水谷戸→高勝寺→稲城中央公園→百村→稲城駅 (解散) 行程5～6 km、多少のアップダウンがあります (標高差100m以下) コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円